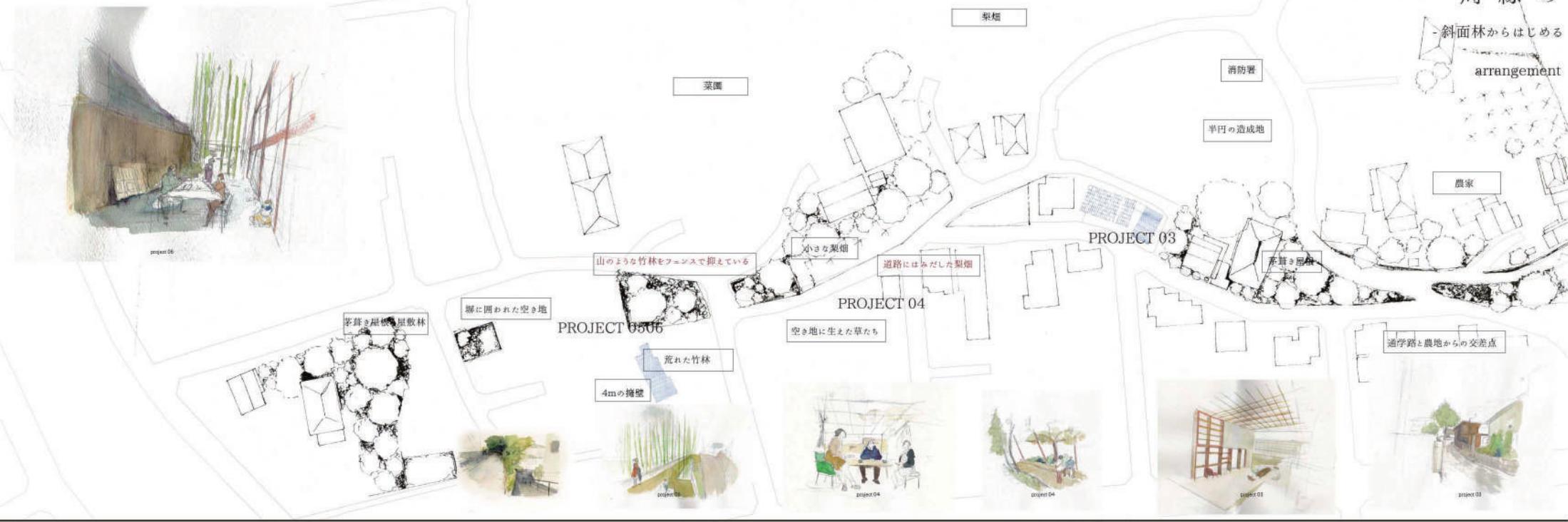


周縁の 斜面林からはじめる arrangement



01

outline



02

SITE



02

SITE

Onomachi Ichikawa Chiba
-市川市大野町-



02

SITE



03

RESEARCH



はじめに

周辺と建築の関係性に興味があります。家は住まれる空間によってその魅力を持続するのかかもしれない。現代の町を歩いてみると経済活性化等の様々な価値観によってできた家があるよりも多いことに気がかけられます。本来、「バーナード」と「プライベート」は隣間に對けて設置の余地がないものばかりで、住み手が利用者の意識によって変容の余地を残すこと「住まうこと」の重みをつけるがるものと考えています。

つむぎ

都市の住宅地の周縁に残る斜面林沿いについて「斜面者のための街」の計画である。「地域の人にとっての居住所」の計画である。そして隣に、隣地によって周囲にわかれてしまふ「家々道」、隣地等についての「計画」である。

「直線者ための街」の計画とは、「直線者のための居住所」の計画である。ここにいう「里」は「生活する居住所」である。里の住民は「地域の人にとっての居住所」も理解す。どちらも「家の状況」、もうひとつの「家」といっていただけるであろう。

計画者は千葉県市川市大野町。最初が住宅開発されればタクシードラムだった。あらわれた風景の広がる区域である。片側敷地は 1km まるで谷の奥の奥の谷底部に残る斜面林沿いで。台地の尾根筋は農業や近年の新しい住宅地によることで開発によって出来た縫い道も、私有林によってその隣地がある。リニアを認めておらずして、施設や斜面林の危険を評価し、斜面林沿いの耕作や環境保護と同時にリニアを排除する。对象地域へ後の住居や住宅は、今も残っている耕作地や牧草地や空き地などに立てこもって隣り合って隣り合って。この斜面林沿いが新たなエネルギーとして機能することで、隣する場所を利用することが出来る上に、ここに残る生態系を有効活用する手段である。

直線者の状況などといふ。郊外住宅地の更地があつた方の提案である。

大野町の概要

豊崎は千葉県市川市大野町
農村と空地開拓してできたベッドタウンで、あらわれた風景の広がる住宅地である。
東京都に隣接する市川市の北東部に位置す。大野町地区の人口は、12,456人で高齢化率は地区で 22.5%。大野町地区は 30%以上と農地の割合と比較するように進んでいる。

谷津の町

下総台地といふ、古びた台地によって斜面林が静かに広がる。市川大野町から「1973 年度版」地図に表示される農地や林地が斜面に向かうように市川大野町へ西流を通りて伸びる。

神の町
大字小野町の面積率は 50% と市内で最も高い割合で、学校の位置や地形の関係から斜面地帯が集中している。学校の新築整備や移転地を決定時にこだわっている市川大野町小野町。西野町は市川市南花岡地区に位置していることがわかる。

農の町
農地は「市川の自然」ならぬ野から、田畠と林地、斜面地を減らし、住宅地が開拓、他の地形はほとんどそのままの状態で、森林は新規地（主耕地）が広がる。

水のまご
電気は市川市水道として利用されている。大野川と和田川が水路として利用されているため今までに開拓された部分、荒らされた部分といふ感じで残っている。

緑の町
斜面林は「市川の自然」ならぬ野から、田畠と林地、斜面地を減らし、住宅地が開拓、他の地形はほとんどそのままの状態で、森林は新規地（主耕地）が広がる。

緑の町
斜面林は「市川の自然」ならぬ野から、田畠と林地、斜面地を減らし、住宅地が開拓、他の地形はほとんどそのままの状態で、森林は新規地（主耕地）が広がる。

水のまご
電気は市川市水道として利用されている。大野川と和田川が水路として利用されているため今までに開拓された部分、荒らされた部分といふ感じで残っている。

緑の町
斜面林は「市川の自然」ならぬ野から、田畠と林地、斜面地を減らし、住宅地が開拓、他の地形はほとんどそのままの状態で、森林は新規地（主耕地）が広がる。

谷津による町の構成要素

谷津は、都市計画にも反映しており、台地を農地、低地を住宅地といふ住み分けをしている。その中間の斜面に残る現。この地域の景観が一部となっている。

かつて水田の広がっていた低地部分が現在は住宅地となっていて、西側台地（本該斜坡東地城）は、原樹林が残っている。



低地が水田として利用されていた 1944 年の航空写真からも、斜面林はその地形とともに残されてきたことがわかる。
左 (1944) 右 (2016)

農地の利用

近年、新規の不見や高齢化の影響により、農地は休耕地やソーラー発電所、墓地、住宅地へ変えつつある。ベックタウンは市川市南花岡地区に位置していることがわかる。



「そと」に関するノート

ここで、種別地帯のある町にも対応するようなパリエーションを図示した。この図示を元に、その表面が何かでかいからこそ対応できるように記述している。または起きるであろう事例を整理することで、この町にある住むによって、建物に沿ってどのような手筋をとることが、外観空間に対するするまゝや橋りかねの自由な空間が生まれるかを考察している。

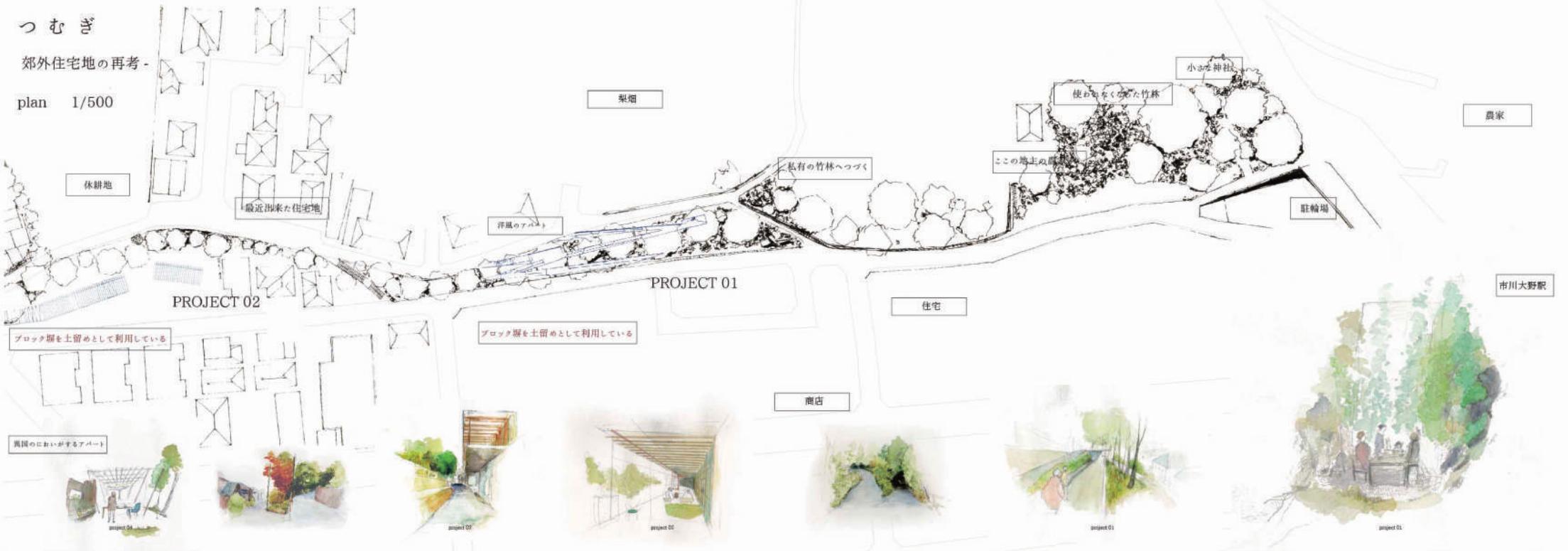
建築の表面を傾斜のある町にも対応するようパリエーションを図示した。この図示を元に、その表面が何かでかいからこそ対応できるように記述している。または起きるであろう事例を整理することで、この町にある住むによって、建物に沿ってどのような手筋をとることが、外観空間に対するするまゝや橋りかねの自由な空間が生まれるかを考察している。



つむぎ

郊外住宅地の再考 -

plan 1/500



03
RESEARCH

「モヒ」に関するメモ



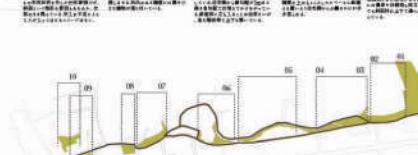
対象地域に見られる公共空間と私的空間の関係の中、特に街中の公共空間へ介入が見られる場所を衛星カッター、観察した後に示しました。斜面池の土盛りの木桟橋、並木道、斜面林に花や木立を木立で囲まれる。このように斜面は地域内から路地まで構成してゆける隠れ空间でもつくる場所であるといえる。そのままである空間構成、斜面で囲まれ立っている木立の周囲及び隣接する周囲の空間で考察する。



これは、その背後にある空間を「見立てる」ことで外うまく上りいれているといえるのではないかだろうか。同時にプリツクは空間を家具スケートで構成することによってそれを開拓することが出来たのではないかだろうか。

RESEARCH

（その上）お聞かせ



畠地は、台地と農地、低地を住宅地として利用されてきた町の構成成为一个間にある新裏裏沿いとしている。対象とする斜面林は台地の裏側の農家や近年の新しい住宅地による、二重境界によって出来た狭い道や、者林によってその環境にむらがある。

この斜面林沿いを観察し、10の場所の性格や要素を記録し、一つのプロジェクトを展開する。



PROPOSAL

MASTER PL

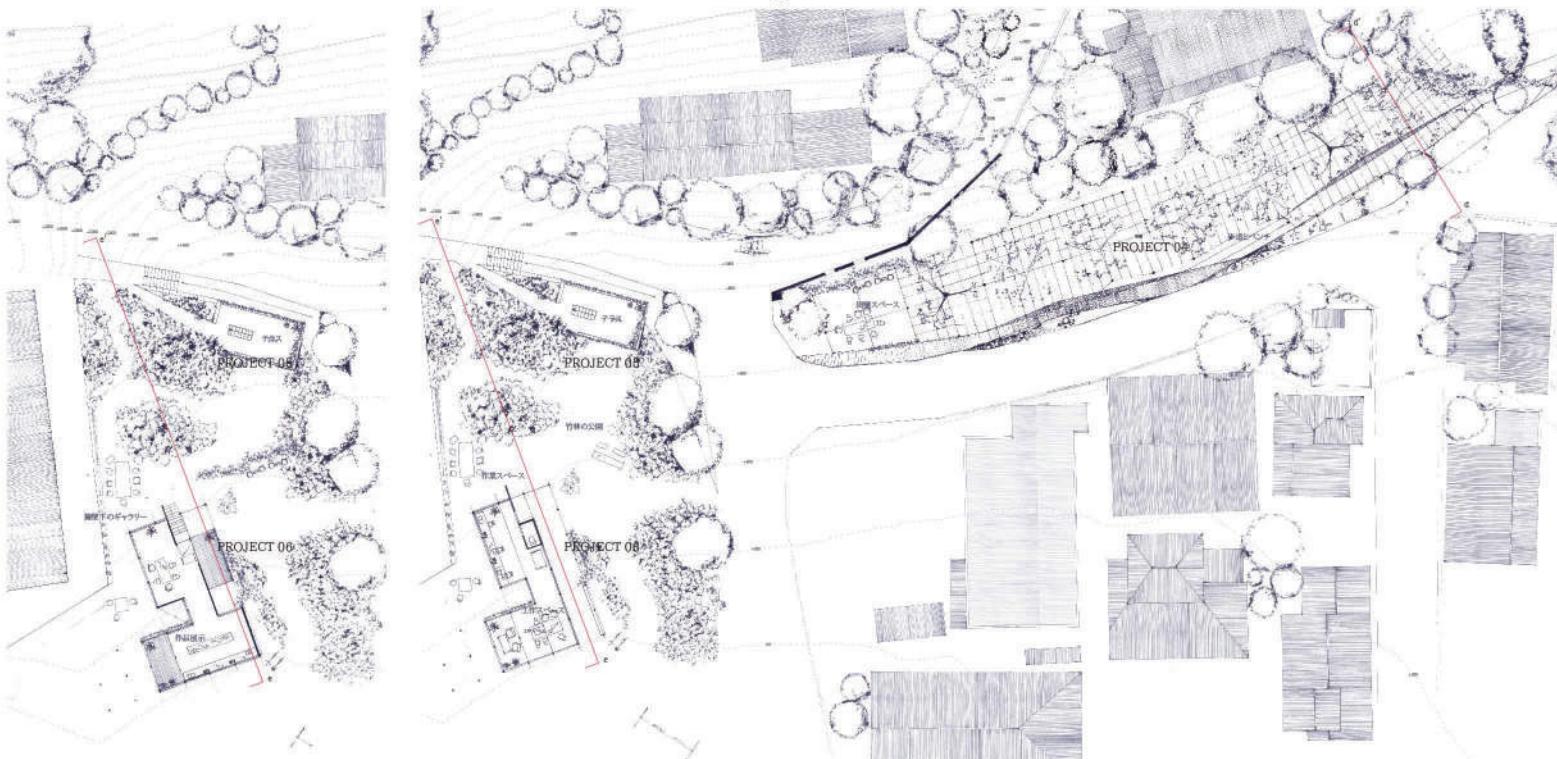


私有林が多く、手入れの行き届いてない林地の整理や、純生放牧地や鹿棲と接するがれき地の開闢と解消しながら、斜面林沿いの小さな道に接する建築や土木工事の修理や造成のあの方を少しでも環境のあり方から変化させてゆくことで、斜面林の保全と同時にこの地域の人にとっての遊び場所やより良い道の提案をする

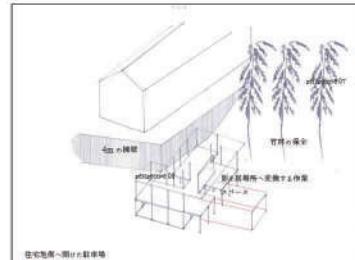
PROJECT 04-06

2f plan1/200 If plan 1/200

N



project 06 Axonometric drawing



PROJECT 0506

竹林の保全とデッキ、欄干下の作業スペース

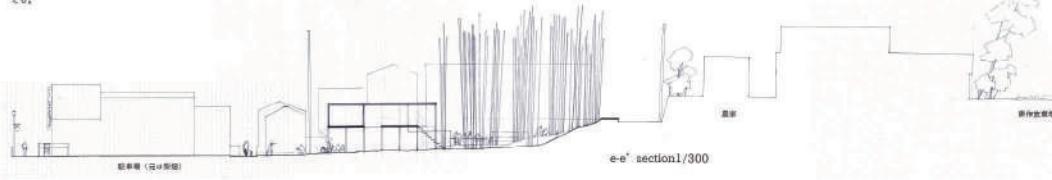
対象敷地の最南にある竹林は、かつて茶園として利用されていたものの、現在その役目を失い、隣接する4mの擁壁が唯一の影を落としている。道より處へ上り下りする土をフンダングで防いでおり、人は立ち入ることが出来ない状態となっている。

また、駐車場を開くこの竹林は、東西に抜けを持ち、住宅街側からよく見える。

PROJECT 04

小さな製烟所の土留めの修復と歩道のデザイン
製烟所の下の憩いスペース

台地と低地の間に小さな製烟所が連続している。また、傾斜で空き地があり、雑草が生えている。台地は商業及び製烟所が広がり、低地側は住宅や路地が林立している。

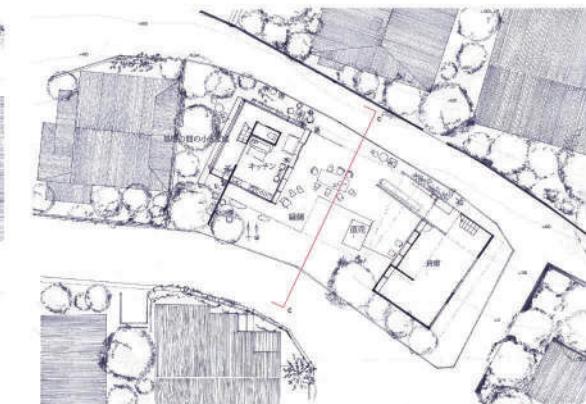


e-e' section1/300

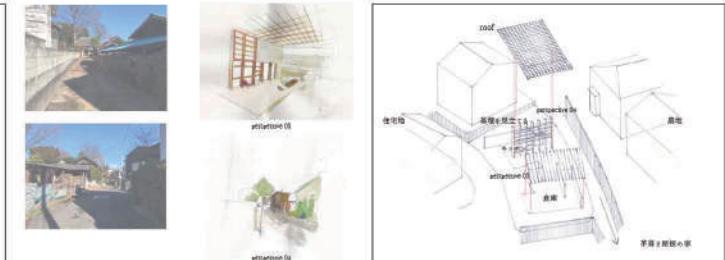
PROJECT 03

plan1/200

N



project 03 Axonometric drawing



PROJECT 03

集会所とキッチン、倉庫の建物

隣接のされているない細い道に接する取り残された街区内にある倉庫は瓦屋で造られている。また、隣接する住宅が造れ基盤によって敷地を取り囲んでいる。

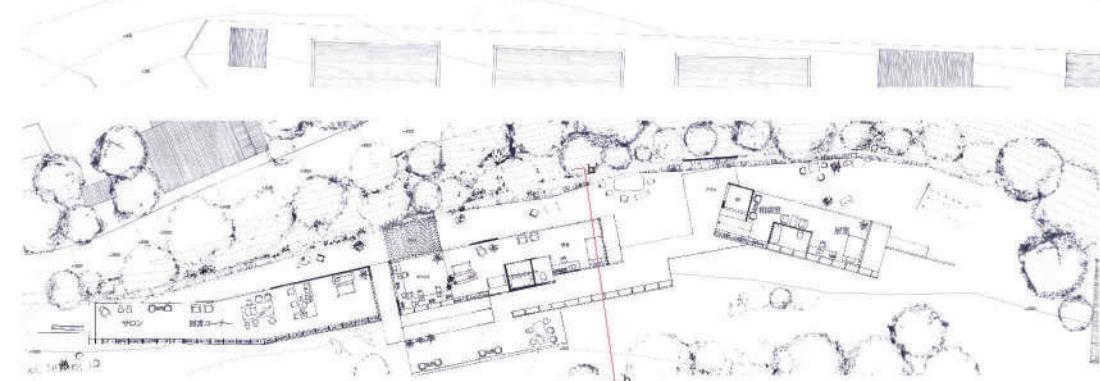
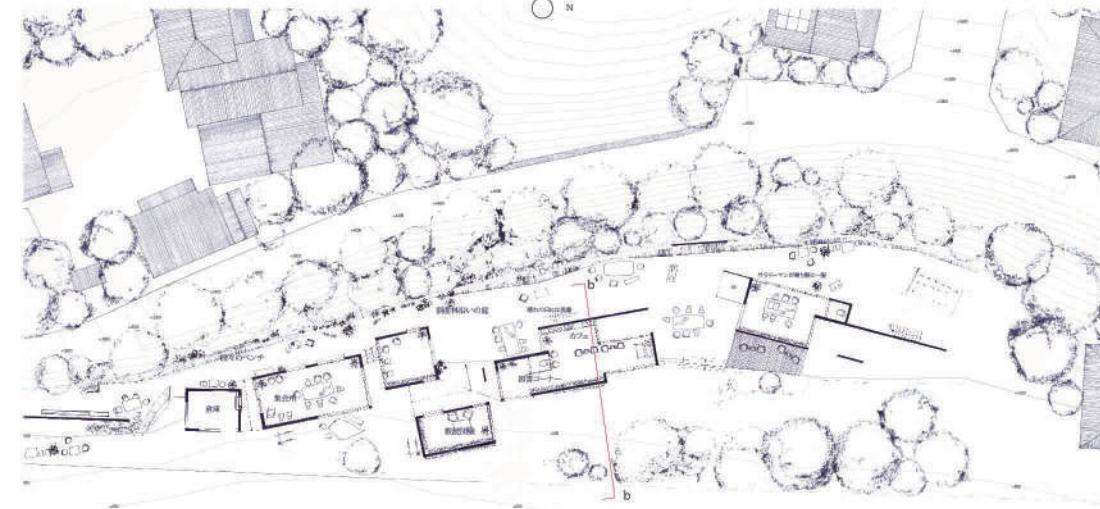


c-c' section1/200

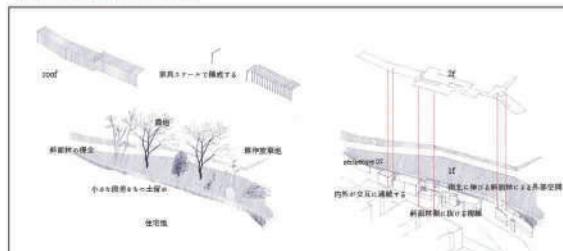
背後にある基礎や壁を取り込むように見立て、家具スケルの軸体で構成したキッチンとおらかた屋根、壁の配置によって庭を設置、半屋外と計画する。農業ガラナティアや緑地保全活動の集会所、ナーチャル活動等で利用するキッチンとして活用する。

PROJECT 02

1f plan1/200
2f plan1/200



project 02 Axonometric drawing



PROJECT 02

通から宿泊までが出来る高齢者向けケア施設
ボランティア活動の集会所

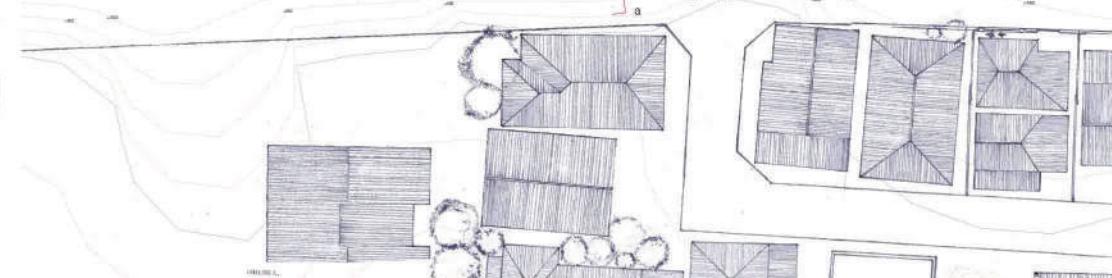
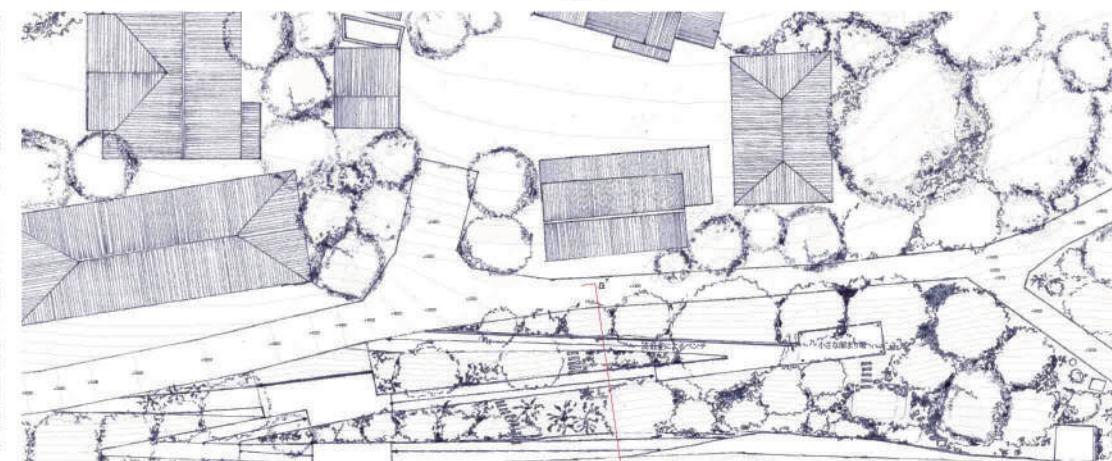
台地に操作放牧地、低地は住宅地という特徴をもつ場所で、斜面林沿いにはブロック壁を土留めにしている。
また、大附小学校の通学路を迎米公民館につづく道上の文差点に位置する。



b-b' perspective1/300

PROJECT 01

plan1/200



project 01 Axonometric drawing

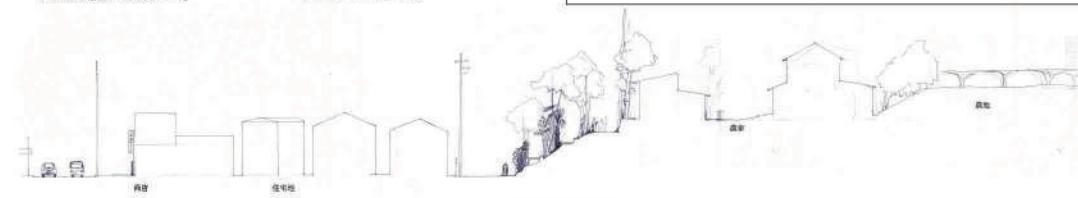
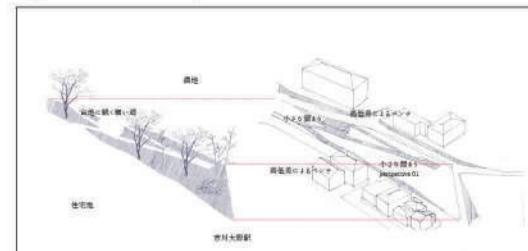


PROJECT 01

スロープに付随するフォリーとベンチ

農家やミニ開拓によってできた細い道と住宅地のある台地と住宅地、商店のある低地の間に残る斜面林沿いは急な坂や階段での昇降している。

この台地と低地を緩やかにスロープでつなぎ、樹木に囲まれた小さな覆まり場や、スロープと斜面の高低差を活かしたベンチを計画する。



a-a' section1/300